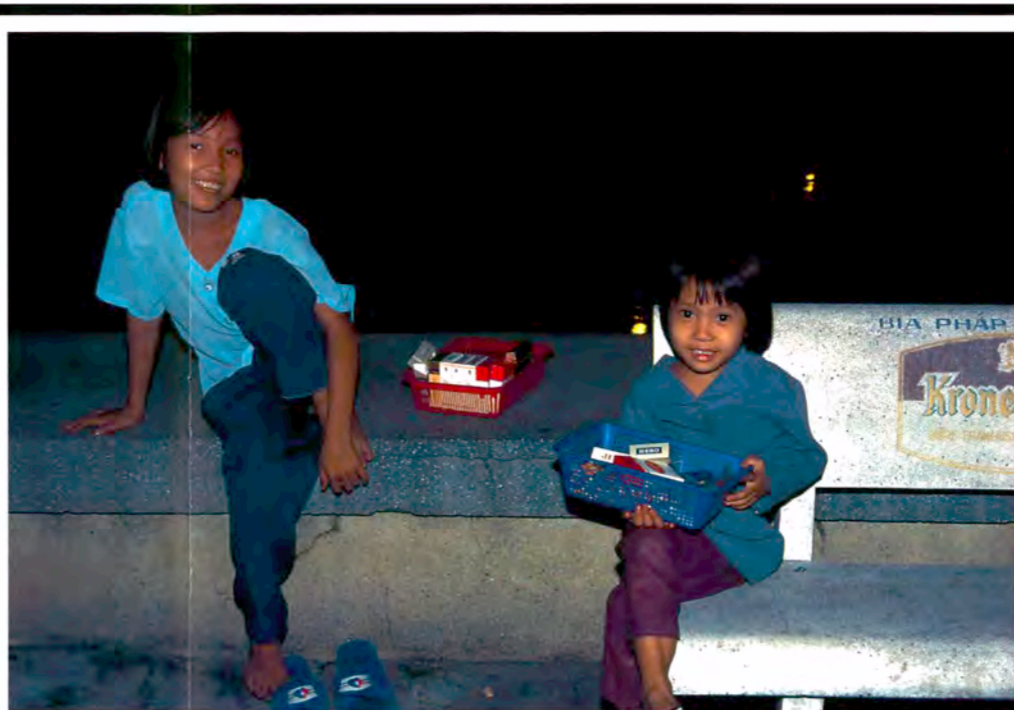


こどもの城 ニュース

KODOMO NO SIRO NEWS

2000.8.15 No. 108 発行 / (こどもの城) 広報部 ☎03-3797-5666
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1



21世紀の元気 平早勉の世界

ごらく場の少ないホーチミンの市民にとって、夜の公園はかっこうのいい場所である。子ども2~3人と奥さんを乗せた4~5人乗りのバイクで公園のはしごを楽しむ家族も多い。

とある公園で、ハッカあめやスナック菓子、タバコを売り歩いていたのは満3歳の女の子。毎晩動いているので、あちこちからお声がかかる人気者。クリクリしたひとみが愛らしい。

ベトナムでは物売りの子どもとよく会ったが、この子が最年少。深夜11時ごろまでがんばるのだ。

ボランティア・リーダーをめざす L.I.T. (Leader In Training) の高校生

体験的にボランティア活動を学んでいます

〔こどもの城〕には、L.I.T. (Leader In Training) という、ボランティア・リーダーをめざしている高校生のグループがあります。9月から翌年8月までの1年間、ボランティア活動の意義や喜びを体験的に学びながら活動。〔こどもの城〕のスタッフや大学生・社会人のボランティア・リーダーに見守られながら、メンバー同士が話し合って自分たちの手で計画を立て、実行しています。

大きくなったら、私もボランティアに!

L.I.T.の活動が始まったのは平成元年6月。おもに中学生までを対象にしている〔こどもの城〕の講座や野外活動(キャンプ)に参加した子どもたちの「高校生になっても〔こどもの城〕で活動したい」という意見がきっかけとなって作られました。

その背景にあったのは、〔こどもの城〕のさまざまな場面で活動している、大学生や社会人のボランティア・リーダーの存在です。ボランティア・リーダーは、子どもたちにとって「お兄さん・お姉さん」、年上の「友だち」「仲間」のような存在でもあり、いっしょに遊んだり、楽しんだり、いろいろなことを教えてもらったり——親しく気軽に話をする事ができる「大人」です。その姿を見てきた子どもたちが「大きくなったら、私たちもボランティアに……」と思ったのです。



ペープサートなどの表現活動にも取り組んでいます。ろうかのかたずみで本番の前に最後の練習。



昨年の夏休みプログラム「わんぱく探偵団」。突然テレビ画面が乱れ、怪盗シグマが現れ、挑戦状が届けられた。

9月から活動を始める、L.I.T.のメンバーを募集します。
詳細は、企画研修部 ☎03-3797-5665 へ。

夏休みには、オリジナルの「あそび」のプログラム

9月から始まった活動のしめくりとして、夏休み特別期間の8月に〔こどもの城〕に遊びに来た子どもたちを対象に、少し大型のプログラムを企画して行っています。春の活動の経験を生かして「次はなにをしようか?」「もっとおもしろいことができるんじゃないか?」とアイデアをふくらませ、話し合いを重ねます。今年は、事前に参加者を募集して8月26・27日の2日間「集まれ! 探検隊2000」を行う予定です。

ポスター・ちらしを作るグループ、会場の飾りや遊びに使うさまざまなものを作るグループというように、役割を分担して、学校や家庭での生活に無理がかからないように活動日を決めて準備を進めています。自分たちのプログラムを企画・実行するほか、希望者は春休みや夏休みの野外活動にも参加しています。

野外活動のサポート、イベントの企画・運営などを体験

最初の年は、かつて自分たちが参加した野外活動(キャンプ)にL.I.T.として参加。スタッフやボランティア・リーダーといっしょになって活動をサポートしました。2年目になると、イベントの企画から準備・運営までの実際も体験。3年目にL.I.T.活動の基本スタイルができあがり、年間計画を立てて野外活動のサポートやイベントの企画・運営を行うなど、メンバーの自発性をたいせつにした運営をめざして活動しています。



活動は毎月1~2回、日曜日。1年間をおおよそ3つの期間に区切って、「仲間作り」「子どもへのアプローチ」「自分たちでプログラムを企画・準備・運営する」をテーマに活動しています。進学・進級があるのでメンバーは毎年半分くらい入れかわります。そのため、最初の3~4か月は仲間作り。活動内容はメンバー同士が話し合って決めるので、毎年異なります。真冬のキャンプ(合宿)、一晩中歩くオーバーナイトハイキングなど、みんなで一つのことに取り組みます。

春休みのころには、「あそび」のプログラムを行い、初めて子どもたちとふれあいます。期待と不安が入り交じって緊張しますが、「うまく説明ができなかった」という反省や「かわいかった」「楽しかった」という感想など、子どもとのふれあいのなかでいろいろなことに気づき、成長していきます。

L.I.T.メンバーの話

なにげない「ありがとう」がうれしい

現在L.I.T.で活動している、種田裕江(高3)、栗山真美(高3)、鬼頭杏利(高2)、海江田希望(高2)、三ノ輪亮佑(高3)さんの5人=写真左から=に話を聞きました。みんな〔こどもの城〕のキャンプに参加したことがあります。

「L.I.T.のお兄さん、お姉さんは親しみやすく、あこがれてた」「としも近く、よく話した。かっこいいと思った。いつも笑って、ウチらをサポートしてくれた」「前のキャンプで班長だった人がL.I.T.として、次のキャンプにもどってくる。すごうれしかった」と、「子どもから見た」L.I.T.。今度は自分たちがL.I.T.としてキャンプに参加。「裏方の仕事が多く、たいへんだったけど、やってよかった」「足手まといになってないか? これでもいいのか? と考えることもあったけど……」。あこがれていたL.I.T.になった喜び、L.I.T.としての責任、さまざまな思いを話してくれました。

春のイベントの印象は——。「お母さんと一緒にないとダメな子がいたけど、ずっとみていたら、なついてくれた」「ペープサートをやっている、子どもたちの顔は見えないんだけど、リアクションから一生懸命見てくれているのがわかって、はりきっちゃった」「役にたいて、がんばった」「司会・進行のお姉さん役だったんだけど、自分が投げかけた言葉に、答え

をかえてくれる。うれしかった」。そして、みんなが口をそろえていうのは、子どもたちの口から自然に出た「ありがとう」という言葉。「なにげない子どもの言葉が、うれしくて、楽しさを倍増させてくれる」。

L.I.T.のメンバーは、通っている学校も、住んでいる所もいろいろ。「いろいろなタイプの人がある」「同じ学年だからこそ、はげましあえる」「1年間いっしょに活動しているから、とっぴょうしもないことを言っても、なにを考えているのかわかるし……」「同じころざしを持ったひとが集まっている。心の奥底に思っていることは同じだから、いろいろな意見があっても最後はまとまる」——そこには信頼しあう「仲間」がいました。

5人は、夏のプログラムを準備するための合宿の最中。「自分たちが100%やりたいから、意欲が違う」「今回の合宿のタイムテーブルも自分たちで立てた」「合宿までして、みっちり話し合っているから、期待しててください。(学生や社会人の)ボランティアにない、「若さ」という強さがあるから」と元気いっぱい。がんばれ! L.I.T.!



飢えた好奇心に。



FMV-DESKPOWER C4/66L



FMV-BIBLO NE4/600D

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE FUJITSU

FMV
DESKPOWER / BIBLO

FAX 本広告の製品カタログを FAXにてお送りします。 千葉:043-299-3642 大阪:06-6949-3270 (資料番号/デスクパワー-1141、ビブロ1151)

